



『暮らしをつくる』

著者に聞く

この本では地方でものづくりをされている作家さん7組の暮らしをテーマにしています。みなさん各地で、ガラスや布や、木工などいろんなものづくりをされている方々ですが、その方々のものづくりの面だけでなく、暮らしにフォーカスした内容になっています。例えば、家を自分の手で直したり、食べものを自給自足していたり。「暮らし」の本ではありませんが、最近よくある断捨離とか、いかにシンプルに生きるかといった話ではなく、むしろ真逆かもしれません。

どうしてこういう本をつくりたいと思ったか。一年半ほど前に取材で新潟県の上越市にある中ノ俣という集落を訪れました。人口が80人50世帯ほどの小さな村です。昭和50年代までは冬になると雪で車も通れないような閉ざされた場所で、そのぶん昔の暮らしがほんとうに色濃く残っていました。田んぼ仕事は手刈り、手干しだったり、炭をつくったり、薪でお風呂をわかしたり。山菜を採ってきては塩漬けにして保存したり。

ここに通っておばあちゃんたちと時間を過ごしていると、すごく豊かだなあと感じるものがたくさんあって、でもその



暮らしをつくる

～ものづくり作家に学ぶ、これからの生きかた

甲斐かおり・著

B5判/128ページ

定価(本体1680円+税)

ISBN978-4-7741-8648-1

<登場作家>

ピーター・アイビー (ガラス作家)

早川ユミ (布作家)

相馬紳二郎 (革職人)

鈴木康人・智子 (omoto・鍛冶職人/布作家)

大島正幸 (木工房ようび・木工作家)

新里カオリ (立花テキスタイル研究所)

酒井義夫 (ろくる舎・木地師)

豊かさって何だろうって考えると、けして経済的な豊かさではないし、暮らしが快適とか楽というわけでもない。じゃあ何だろうと思うと、例えば山菜を摘みにいったときの手ざわりとか、水が冷たいなあっていう感覚とか、薪風呂のお湯のじんじんした熱さとか、五感で感じるということのリアリティなんじゃないかと。それが、豊かだなんて感じる気持ちの源泉なんじゃないかなと思ったんです。

一方で現代の暮らしは、ボタン一つでお風呂もわくし、火もつくし、便利……だけれどリアリティがない。これから先の暮らしを考えていくときに、必ずしも効率とか便利さばかりではなくて、あえて時間はかかるけど自分の手でやってみるとか、手間がかかるけど手を動かしてみるって行為のなかに、豊かさとか幸せな感じ生まれるのかもあって。

昔の暮らしに戻るとかではなくて、いまの感覚でそういう豊かさを取り入れている人ってどこにいるんだろうと見渡してみると、ものづくりを仕事にされている方はやっぱり自分の手で何かをつくれるのでそのセンスがあるなあと印象をもちました。それで、暮らしや働き方がユニークな7組のものづくり作家にお話をうかがい、これからの暮らし、生き方のヒントを7つのストーリーとしてまとめたのがこの本というわけです。(甲斐かおり・談)

甲斐かおり (かい・かおり)

編集・執筆。会社員を経て、フリーに。日本各地を取材し、食やものづくり、地域コミュニティ、郷土文化、農業などのテーマを手がけて8年目になる。ストーリーのある文章が好きで、昔の日本人の暮らしや、大量生産大量消費から離れた価値観で生きる人々の活動やライフスタイル、人物ルポを雑誌やウェブで執筆。各地を訪ね取材する日々をおくっている。



シリーズ既刊



ローカル仕事図鑑

～新天地のハローワーク

DECO・著

B5判/128ページ

定価(本体1680円+税)

ISBN978-4-7741-7999-5

地方で働く人々への取材をとおして、地域での働きかたを紹介する仕事図鑑。地方での暮らしを考えている人、今の就職活動について疑問に思う人に、都心での「就活」では得られない情報を届け、豊かな働きかた、生きかた、暮らしのヒントを提供します。



アナザー拠点のつくりかた

～もうひとつの居場所を見つけよう

DECO・著

B5判/128ページ

定価(本体1680円+税)

ISBN978-4-7741-7998-8

アナザー拠点は、生活拠点とは違うもうひとつの居場所のこと。地方で暮らしたいが都会の生活も捨てがたい、移住を考えているが自信がない。新たな暮らしへの一歩を踏み出せずに悩んでいる人にむけ、自由な暮らし方、働き方を紹介します。

量子論の本質をイメージでつかむ!

「粒子であると同時に波である」…
それって、結局どういうこと?

学ぶ前から、難解である、という評判を聞くことの多い量子論。いや、きっと真面目に学べば、どんな学問であってもその神髄がつかめてくるはず…と思いきや、「粒子であると同時に波である」という矛盾した表現に出会うことになり、多くの学習者は頭をかかえることになります。

量子論はなぜわかりにくいのか、そしてその解決案

本書は、量子論においてそうした矛盾した表現で学ばざるを得なくなった経緯を、歴史とともに明らかにします。さらに本書では、難解な量子論をイメージしやすくなるように、リアルなモデルを提示して、量子論を解説します。

まさに、今度こそわかりたいあなたのための量子論入門、です。



既刊姉妹書の紹介



知の扉シリーズ
素粒子論は
なぜわかりにくいのか
吉田 伸夫 ● 著 四六判・208頁
定価(本体価格1580円+税)
ISBN 978-4-7741-6131-0

素粒子論の「やさしい解説」を何度聞いても、どうしても腑に落ちない…。それもそのはず、多くの人は、素粒子論を理解するためには避けて通れない「場」の考え方について、ほとんど学ぶ機会がないからです。素朴な“粒子”のイメージから脱却し、現代物理学の物質観に目覚める、今度こそわかりたいあなたのための素粒子入門です。

巻頭ページを一部ご紹介! ↓

巻頭図説として「3分でつかむ 素粒子論の「わかりにくさ」の原因」がっています。ここではその2ページのうち1ページ分を公開!

気になった方は、ぜひ本書をお手にとってみてください。

巻頭図説 3分でつかむ 素粒子論の「わかりにくさ」の原因

Q 素粒子論についての一般向け解説では、右のような素粒子の種類を明確にした標準型の図が頻りに示され、そして、「素粒子」の役割などが説明される。しかし、以下のような疑問はなかなか解消されない。

物質的 (物質的)	波動性 (波動性)	相互作用 (相互作用)
① 物質的 (物質的)	② 波動性 (波動性)	③ 相互作用 (相互作用)
④ 物質的 (物質的)	⑤ 波動性 (波動性)	⑥ 相互作用 (相互作用)
⑦ 物質的 (物質的)	⑧ 波動性 (波動性)	⑨ 相互作用 (相互作用)
⑩ 物質的 (物質的)	⑪ 波動性 (波動性)	⑫ 相互作用 (相互作用)
⑬ 物質的 (物質的)	⑭ 波動性 (波動性)	⑮ 相互作用 (相互作用)
⑯ 物質的 (物質的)	⑰ 波動性 (波動性)	⑱ 相互作用 (相互作用)
⑲ 物質的 (物質的)	⑳ 波動性 (波動性)	㉑ 相互作用 (相互作用)
㉒ 物質的 (物質的)	㉓ 波動性 (波動性)	㉔ 相互作用 (相互作用)
㉕ 物質的 (物質的)	㉖ 波動性 (波動性)	㉗ 相互作用 (相互作用)
㉘ 物質的 (物質的)	㉙ 波動性 (波動性)	㉚ 相互作用 (相互作用)
㉛ 物質的 (物質的)	㉜ 波動性 (波動性)	㉝ 相互作用 (相互作用)
㉞ 物質的 (物質的)	㉟ 波動性 (波動性)	㊱ 相互作用 (相互作用)
㊲ 物質的 (物質的)	㊳ 波動性 (波動性)	㊴ 相互作用 (相互作用)
㊵ 物質的 (物質的)	㊶ 波動性 (波動性)	㊷ 相互作用 (相互作用)
㊸ 物質的 (物質的)	㊹ 波動性 (波動性)	㊺ 相互作用 (相互作用)
㊻ 物質的 (物質的)	㊼ 波動性 (波動性)	㊽ 相互作用 (相互作用)
㊾ 物質的 (物質的)	㊿ 波動性 (波動性)	㋀ 相互作用 (相互作用)

① 結局のところ、この世界は、素粒子という「粒子」で構成されているのか?
② 量子力学が「粒子」に由来するときに「波」(量子と波動の二重性)については、どうなっているのか? これら素粒子が、どう「波」のように振る舞うのか?
③ 物質が「粒子」なのか、それとも「波」なのか? 「粒子」はどのように振る舞うのか? 「粒子」をキャッチボールするときに、力を伝える「粒子」はどのように振る舞うのか? 「粒子」をキャッチボールするとき、力を伝える「粒子」はどのように振る舞うのか? などといった疑問が浮かんでくる。

④ いったい何が理解を阻む原因だろうか?

A 素粒子論をそれなりに理解するためには、物質と波動という素朴な二元論から脱却し、この世界の捉え方として「場の理論」を理解しなければいけない。場を振る舞う波動が「粒子」として振る舞って見えるというところについての理解が重要だ。

場の理論の考え方は、高次物理学における電磁気学ではじめて出てくる(その前身は、大学で専門的に習う人以外には、学ぶ機会のないものである)。そのため、多くの人が、場の理論はなじみのないものとなっている。だが、場の理論を理解しないことには、素粒子論を理解することは難しい。「粒子」であって「波」である、といった奇妙な現象についても、場の考え方によって解決できる。

吉田 伸夫 ● 著
四六判・208頁
定価(本体価格1580円+税)
ISBN 978-4-7741-8818-8

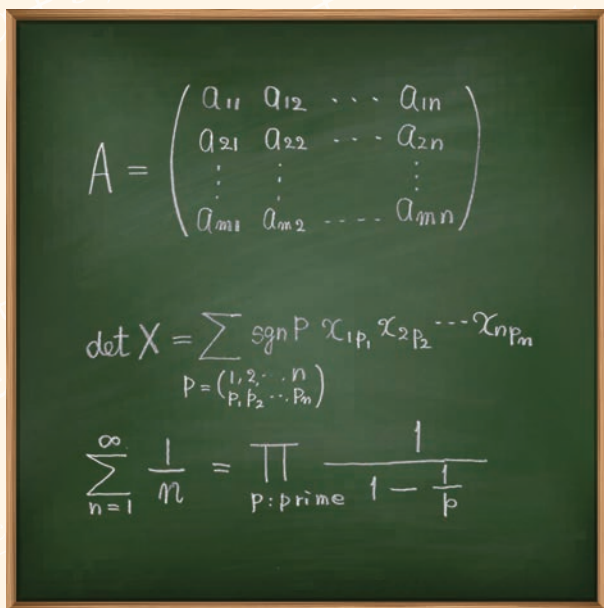
知の扉シリーズ 量子論は なぜわかりにくいのか

好評発売中!

瀬山士郎先生の 数学よもやま話

連載⑥ 数学と数学記号

しばらく前、2013年に技術評論社から『数学記号を読む辞典』という本を出版していただいた。小学校から始まる数学記号(数字、+、-など)から大学で学ぶ行列や偏微分の記号までを使用実例を挙げながら解説した本である。現在、放送大学で数学に少しだけ関係していて、何名かの学生の方から、数学記号の読み方や使い方を質問されたことがある。それも本書を執筆する動機になった。放送大学の勉強会では数学書を朗読しながら話を進めているので、文字通り物理的な読み方も問題になるのだ。実際は数学書を独習しているときは、読み方は分からなくても、記号の意味さえつかめれば大丈夫である。



これらの数式、あなたは読めますか？

profile

瀬山士郎 (せやま しろう)

1946年群馬県生まれ。1970年東京教育大学大学院理学研究科終了。専門は位相幾何学、グラフ理論。1970年群馬大学教員となり、2011年定年退職。群馬大学名誉教授。数学教育協議会会員。

主な著書に「バナッハ・タルスキの密室」(日本評論社、2013年)、「読む数学」(角川ソフィア文庫、2014年)、「はじめての現代数学」(ハヤカワ文庫、2009年)、「幾何物語」(ちくま学芸文庫、2007年)、「無限と連続の数学」(東京図書、2005年)、「トポロジー：柔らかな幾何学」(日本評論社、2003年)、「計算のひみつ—考え方の練習帳」(さ・え・ら書房、2004年)、「数学 想像力の科学」(岩波書店、2014年)などがある。

数学は抽象的な学問だが、記号を使って研究を展開するという大きな特徴がある。もちろん文字も記号の一種だから、どんな学問でも記号を使って展開されるのだが、数学記号の場合、その記号列を一定の規則に従って変形できる(広い意味での計算といってもいいと思う)という特徴がある。

数学が数学記号を使うのは、思考過程が記号変形によって目に見える形で取り出せるからであり、その方が普通の文章表現よりずっと正確に内容を表すことができるからだ。多くの人は、記号を使うことで難しくなるのではと誤解している。そんなことはない。記号を使うことで、扱っている数学的な内容がずっと分かりやすく明確になる。数学記号は言語であり、しかも論理的に洗練された綺麗な言語なのだ。と言いつつ、線形代数学で出てくる添え字の多さに戸惑う学生さんたちを見て、なるほど、いささか面倒だなあ、と思うこともあるのですが。



知の扉シリーズ
数学記号を読む辞典

好評
発売中!

瀬山 士郎◎著

四六判・208頁

定価(本体価格1580円+税)

ISBN 978-4-7741-5982-9

知の扉シリーズ
証明と論理に
強くなる

こちらも好評発売中!



論理式が難しく思えるのは単に慣れていないからだった! たった6個の論理記号といくつかの規則だけで証明や論理式は成り立っています。論理式の読み方と意味を徹底的に解説する決定版。

小島 寛之◎著

四六判・352頁

定価(本体価格1680円+税)

ISBN 978-4-7741-8664-1



知的財産管理技能検定 3級を受けよう

「コンピュータのプログラムを作ったので特許を受けられるのだろうか？」

「コンピュータのプログラムを業務で作ったけど、著作権はいったい誰になるのだろうか？」

「データベースの設計をしたけど、著作権の保護を受けられるのだろうか？」

「自社サイトに書いた文章を無断でコピーされ、別のサイトを作られてしまった。どう対処すればいいのだろうか？」…

IT技術者も仕事において知的財産について、なんらかの関わりをもつ場面もでてくるでしょう。そういった知的財産について、一通りの知識を身につけられるのが、知的財産管理技能検定3級です。

知的財産管理技能検定は、一般財団法人知的財産研究教育財団 知的財産教育協会が実施している試験です。知的財産管理技能検定は、1級から3級までありますが、3級が一番やさしく、入門者向けの試験です。試験の概要を次表に示します。

表 ● 知的財産管理技能検定3級の概要

試験日	3月、7月、11月
試験科目と試験時間	学科試験45分、実技試験45分
試験会場	全国20か所前後
試験方式	学科試験：筆記試験（マークシート方式） 実技試験：筆記試験（記述式）
試験科目	1 ブランド保護 2 技術保護 3 コンテンツ保護 4 デザイン保護 5 契約 6 エンフォースメント 7 関係法規

※試験の詳細は知的財産教育協会のホームページをご覧ください。
一般財団法人 知的財産研究教育財団 知的財産教育協会
<http://www.kentei-info-ip-edu.org/>

試験は学科試験と実技試験があります。実技試験というと、何かをやらされるのかとか、何かを作らされるのかと思うかもしれませんが、普通の筆記試験です。

実技試験は、企業で知的財産の活用と管理するシーンを試験問題にしたもので、知的財産管理部の社員どうしの会話文が多数出題されます。すべての選択肢で社員のもっともらしい発言が書いてあるのですが、その中から誤っている答えや正しい答えを問題文にしたがって選択します。試験の問題文を読んでいるだけで、知的財産をどう活用するのか参考になり、かなりためになります。

（実技試験の問題を読んでいるとおもしろいのですが、正誤を判断するには知的財産の基礎知識が必要です）

知的財産管理技能検定3級の試験は、特許法、実用新案法、意匠法、商標法、条約、著作権法、不正競争防止法、種苗法、独占禁止法、弁理士法、民法などから出題されます。この中でも特に、特許法、商標法、著作権法からの出題が約7割を占めます。

技術者は自分の仕事とする技術を知っているのは必須ですが、特許や著作権などの知的財産の基礎を知っていると、あとあと便利です。特許を取ることを推奨している企業も多いですし、仕事をしていて知的財産がらみで予想もしないことに巻き込まれることもあるからです。

また、企業の知的財産管理部で働いている方は、必須の資格といえます。

知的財産の基礎を学ぶために、知的財産管理技能検定3級にチャレンジしてみてもいいのではないでしょうか。



らくらく突破 改訂新版

知的財産管理技能検定3級 合格教本

■ 著者プロフィール

岩崎博孝（いわさきひろたか）

弁理士。

2004年に弁理士登録、翌年に特定侵害訴訟代理付記登録。

2008年より芝浦工業大学工学部において知的財産権の授業も担当する。

2009年に独立し、主に中小企業や個人に対して知的財産権取得の支援を行っている。

彩都総合特許事務所 新潟オフィス <http://www.sightpat-niigata.jp/>

岩崎博孝 ● 著

A5判・336頁

定価（本体価格2380円＋税）

ISBN 978-4-7741-8760-0